

主題：イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶことによって、
キリストのからだの実際の中で生きる

メッセージ 14

一つの事を思い、秘訣を学ぶことによって、
キリストのからだの実際の中で生きる

聖書：エペソ4:20-21. ピリピ2:2. 3:12-14. 4:6-8, 11-13

I. ピリピ人への手紙における「一つの事」は、キリストの主観的な認識と経験を指しています。「一つの事」とは、キリストを追い求め、彼を得て、彼を捕らえ、彼を所有することです——1:20-21. 2:2, 5. 3:7-14. 4:13:

A. キリストのからだの中で生きるために、わたしたちはキリストを極みまで愛することによって彼を享受しなければならず、また彼を愛するために、わたしたちの思いがかたくなにされること(Ⅱコリント3:14)、くらまされること(4:4)、従順でないこと(10:4-5)、腐敗させられること(11:2-3)から救い出される必要があります。

B. わたしたちの思考はキリストを知る知識の卓越性とキリストを経験し享受することに集中しているべきです。他の何かに集中することは異なった考え方をするようにさせ、こうしてわたしたちの間に論争を生み出します。わたしたちの目標はキリストを満ち満ちた程度にまで享受し、彼を満ち満ちた程度にまで獲得することです——Ⅰコリント1:10. ピリピ3:8-9, 14. 4:2:

1. 「どうかあなたがたは同じ事を思い、同じ愛を持ち、魂において結合され、一つの事を思って、わたしの喜びが満ちるようにしてください」——2:2。
2. 「わたしは、すでに得たとか、すでに完成されているとか言うものではありません。わたしは、それを捕らえようと追い求めているのですが、それはわたしが、キリスト・イエスによって捕らえられているからです。兄弟たちよ、わたしはまだ自分自身、捕らえたとは思っていません。ただ一つの事、すなわち、後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばしつつ、キリスト・イエスの中でわたしを上を召してくださった神の賞を得るために、目標に向かって追い求めています」——3:12-14 (原文)。
3. 「マルタ、マルタ、あなたは多くの事で思い煩い、心配している。しかし、無くてならないものは、ただ一つ[の事]である。マリアはその良い分を選んだのだ。それを、彼女から取り上げてはならない」——ルカ10:41後半-42。
4. 「わたしは一つの事をエホバに願いました。わたしはそれだけを求めます。わたしの命の日の限り、エホバの家に住んで、エホバの麗しさを見つめ、彼の宮で尋ね求めることを」——詩27:4。
5. 「わたしには、あなたを責めるべき事が一つある。あなたは初めの愛を離れてしまった」——啓2:4。

C. 主の回復における一つの事、他に類を見ない事は、神の永遠のエコノミーとそれに伴う、その中心性と普遍性であるキリストです——コロサイ3:10-11:

1. 主の回復において重点が置かれ、強調され、供給されるべき一つの事は、神の永遠のエコノミーです——Ⅰテモテ1:3-4。
2. 神の永遠のエコノミーの内容はキリストです。実際には、キリストの三つの段階の満ち満ちた務めにおける彼ご自身が、神聖なエコノミーです(ヨハネ1:14. Ⅰコリント15:45後半. 啓1:4. 3:1. 4:5. 5:6)。神の願いは、キリストのパー孙の混じり気のない全体的な回復を持つことです(コロサイ1:17後半, 18後半. Ⅱコリント12:2前半. 2:10. 3:3)。

Ⅱ. 「わたしはどんな境遇でも、満ち足りることを学んだからです。わたしは卑しくなる道を知り、また豊かになる道も知っています。あらゆる事において、またいっさいの事柄において、わたしは飽くことにも飢えることにも、豊かであることにも乏しくあることにも、秘訣を学びました。わたしは、わたしを力づけてくださる方の中で、いっさいの事柄を行なうことができるのです」——ピリピ4:11後半-13:

A. 「秘訣を学びました」という語句は、パウロが新しい状況、新しい環境に入ったことを示しています。わたしたちは新しい環境に置かれるときはいつでも、その環境の中で生きる秘訣を学ぶ必要があります:

1. 「わたしは……秘訣を学びました」は、文字どおりには、「わたしは入門しました」を意味します。ここの比喩は、人が秘密結社に入門して、その基本原則を教えられることを言います。
2. パウロはキリストに回心した後、キリストとキリストのからだの中に入門しました。そして、彼はどのようにキリストを命とし(コロサイ3:4)、キリストを生き(ピリピ1:21前半)、キリストを大きく表現し(20節)、キリストを獲得し(3:8, 12)、召会生活を持つ(1:8, 19. 2:1-4, 19-20. 4:1-3)秘訣を学びました。

B. 信者たちは弟子たち、学ぶ者たちであって、実際の霊に、四福音書に記録されているイエスの生活(すなわち、イエスが神の中で、神と共に、神のために、あらゆる事を行なった生活であり、神は彼が生きていることの中におり、また彼は神と一つでした)の実際の状態のあらゆる実際の中へと導き入れてもらうことによって、イエスにあるあの実際としてのキリストを学んでいる人たちです——ヨハネ16:13. エペソ4:20-21:

1. キリストに従う者たちが弟子たちへと構成されたのは、キリストの地上での人の生活、すなわち、神・人の原型として、人性の中でご自身を否むことによって神を生きた生活(ヨハネ5:19, 30)を通してであり、これは、人に関する彼らの観念を徹底的に変えました(ピリピ3:10. 1:21前半)。
2. キリストは彼の人性において彼自身を否むことによって神を生きたので、「受けた苦しみに従順を学ばれ」(ヘブル5:8)、「死にまでも、すなわち十字架の死に至るまでも従順になられました」(ピリピ2:8)。
3. わたしたちはキリストの模範にしたがって彼を学びますが(マタイ11:29)、わたしたちの天然の命によってではなく、復活の中の彼の命、すなわち復活の中の服従の命によってです。弟子は人の命の中で神聖な命を生きた人です。

4. 「わたしは回復の中で、ウオッチマン・ニー兄弟が十八年間どのように振る舞ってきたか観察していました。わたしが彼の中で観察したことはすべて、わたしを弟子に構成するものとなりました」（リー全集、1994年から1997年、第5巻、「バイタルグループ」）。
 5. 主の弟子たち、彼を学ぶ者たちとして、わたしたちは絶えず神の恵みとしての彼の訓練の下にいます。彼はまた「わたしたちの救い主・神の慈しみと、人に対する彼の愛」として、わたしたちに現れました。この恵みは「わたしたちを訓練して、不敬虔とこの世の欲を否み、今の世にあって、冷静に、義しく、敬虔に生活するようにさせ、祝福された望み、すなわち、わたしたちの大いなる神また救い主、イエス・キリストの栄光の出現を待ち望むようにさせています」——テトス 2:11-13. 3:4。
 6. 召会生活をしている姉妹たちは主の弟子たちであるので、年長の姉妹たちは主と一つになって、若い姉妹たちを訓練して、「夫を愛し、子供を愛し、冷静な思いを持ち、純潔で、家事に励み、善良で、自分自身の夫に服従する者とならせ、神の言がそしられることのないように」すべきです——2:3-5。
 7. 主の弟子として、わたしたちは主の言葉に服従して、これが「どういう意味なのか、行って学んで」くる必要があります。神は哀れな罪人にあわれみを示すことを願っているので、わたしたちにも愛の中で他の人にあわれみを示してほしいのです——マタイ 9:12-13. ミカ 6:6-8. マルコ 12:33。
- C. わたしたちは「隠れて」施しをし、祈り、断食する必要があります（マタイ 6:4, 6, 18）。それは、わたしたちが「ご自身を隠す神」（イザヤ 45:15）と一つになって、「隠れて見ておられる」（マタイ 6:18）方である御父の臨在を顧慮するためです：
1. わたしたちはわたしたちの「密室」（6節）、また「いと高き方の隠れ場」（詩 91:1）であるわたしたちの霊にとどまって、わたしたちの服従の命であるキリストを経験する必要があります。
 2. わたしたちは「あなたの御顔の隠れ場」（31:20）であるわたしたちの霊の中に隠してくれるようキリストに求めることによって、彼の中に隠れる必要があります。わたしたちがわたしたちの霊の中にいるとき、わたしたちはキリストの中にいますが、この方の中では、この世の支配者であるサタンは何も持っていません。すなわち、あらゆる事で何の立場も、機会も、希望も、可能性も持っていません（ヨハネ 14:30）。
- D. ピリピ第4章の秘訣は、わたしたちを力づける方としてのキリストの中で、いっさいの事柄を行なうことです——13節. 詩歌 780番：
1. パウロはキリストにある人であり（Ⅱコリント 12:2前半）、他の人にキリストの中で見いだされることを願いました。ピリピ第4章13節で、彼はまさに彼を力づけてくださるキリストである彼の中で、いっさいの事柄を行なうことができると宣言しました。これは彼がキリストを経験することでの包括的な結論の言葉です。それは、主とわたしたちの有機的な関係に関する、ヨハネ第15章5節の「わたしを離れては、あなたがたは何もすることができない」という主の言葉の裏返しです。

2. パウロは律法の下で完全にユダヤ教の中にいて、常に他の人に律法の中に見いだされていましたが、彼が回心した時、彼は律法と彼の以前の宗教からキリストの中へと移し入れられて、「キリストにある人」となりました——Ⅱコリント12:2前半。
 3. 今や、彼は彼を観察するすべての人によってキリストの中に見いだされることを期待しました。これが示すのは、彼は彼の全存在がキリストで浸透飽和され、彼を観察するだれもが彼を完全にキリストの中に見いだすことを熱望していたということです。わたしたちがキリストの中に見いだされる時、はじめてキリストが表現され、大きく表現します——ピリピ3:9前半、1:20。
 4. 一方で、キリストに力づけられることによって、わたしたちは満ち足りた生活を行うことができます（4:11-12）。もう一方で、キリストに力づけられることによって、わたしたちは真実で、威厳があり、義しく、純粋で、愛らしく、好評を得ることができます（8節）。
 5. 力づける方としてのキリストについてのパウロの言葉は、特にキリストがわたしたちを力づけて、彼をわたしたちの人の美德として生き、それによって無限の偉大さの中で彼を大きく表現することに適用されています。
- E. 力づける方としてのキリストの中で、いっさいの事柄を行なう実際的な方法は、ピリピ第4章6節から7節に見られます。「何事にも思い煩うことなく、あらゆることにおいて、感謝をささげることを伴う祈りと願い求めによって、あなたがたの要望を神に知らせなさい。そうすれば、人知をはるかに超えた神の平安が、あなたがたの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛してくださいます」:
1. キリストご自身は神の平安であり、あらゆる人の理解を超えています——イザヤ9:6. ヨハネ14:27. ルカ7:50. ローマ3:17. 5:1. 8:6. 15:13. 16:20。
 2. 「神に」は、前に向かう動作を表しており、生きた結合と交流の意味があり、交わりを暗示しています。こういうわけで、ここでの「神に」の意味は、「神との交わりの中で」です——ピリピ4:6。
 3. わたしたちが祈りの中で神と交わることを実行した結果は、神の平安を享受することです。神の平安とは、実は平安としての神であり（9節）、祈りによる彼との交わりを通してわたしたちの中へと注入されて、問題に対する平衡力、また心配事への解毒剤となります（ヨハネ16:33）。
 4. 平安の神はキリストの中でわたしたちの心と思考の前を巡回して、わたしたちを穏やかに、冷静に保ちます（参照、イザヤ30:15前半）。もしわたしたちが心配事のない生活を持とうと思うなら、良くもあり悪くもある、わたしたちのすべての環境は神によってわたしたちに按配されたものであり、それはわたしたちがキリストを獲得し、キリストを生き、キリストを大きく表現するというわたしたちの運命を果たすためにわたしたちに与えられていることを認識する必要があります（ローマ8:28-30. マタイ10:29-31. Ⅱコリント4:15-18）。
- F. 力づける方としてのキリストの中で、いっさいの事柄を行なう秘訣を学ぶことは、「祈ってイエスと交わる」ことであり、彼はわたしたちの王であり、わたしたちの主であり、わたしたちのかしらであり、わたしたちの夫です（詩歌56番）。神と

接触する祈りは、真に心から語られる言葉から成ります：

1. わたしたちは悲しみ、意気消沈、落胆の状況にあるかもしれません。わたしたちは問題を主にもたらし、それらについて彼に告げるべきです。彼は最高の聞き手です。彼はわたしたちの感情を知っており、わたしたちの心に同情してくれます。彼はわたしたちを慰め、助けることができます。
2. わたしたちが主と徹底的に話し合い、わたしたちの心を彼に注ぎ出すとき、主に対する親密度は一段と増し加わり、わたしたちはもう少し彼を知るようになることを認識すべきです。こういう時の彼との親密な接触は、彼との通常の交わりよりも百倍勝っています。こういう接触によって、わたしたちは命において成長します——詩62:6-8, 56:8, 参照、サムエル上1:15。
3. もしだれであれ一度でも主の御前で涙を流したことがないなら、主と共に喜びも悲しみも分かち合ったことがないなら、個人的な事柄を主に話したことがないなら、いかなる親密な交わりも、いかなる深い面識も持ったことがないでしょう。人は主にあらゆることを告げることを通して、はじめて主により近づくことができます。
4. 彼はわたしたちの問題の一つ一つに同情してくれます。わたしたちの主は進んでわたしたちの心配事を担ってくれますし、彼は喜んでわたしたちの語りかけを聞いてくれます。命の生ける水としての彼を享受するために、わたしたちは霊の岩としての彼に語りかける必要があります——民20:8, I コリント10:4, 出17:6, 詩歌202番。
5. 詩篇第102篇のタイトルは言います、「苦しむ者の祈り。彼が弱まり、自分の苦情をエホバの御前に吐き出しているとき」。わたしたちは神に不平を言うかもしれませんが、わたしたちの不平は神にとって最上の祈り、最も喜ばしい祈りであるかもしれません。わたしたちが不平を言っている時、神は歓喜しています。なぜなら、彼はわたしたちが御子のかたちに同形化されるために、すべてを共に働かせて益とならせるからです——ローマ8:28-29。
6. 詩篇第73篇は、自分自身の苦難と悪しき者の繁栄によって、ほとんどつまずきかけている、追い求める詩篇作者による偽りのない祈りの記録です。彼は自分がむなしく心をきよめたと考えていました。なぜなら、彼は物質の繁栄を享受することなく、終日、災難に遭い、朝ごとに懲らしめを受けていたからです——12-16節：
 - a. 悪しき者の繁栄に関する、詩篇作者の困惑に対する解決は、神の聖なる所において得られました。第一に、神の聖なる所、神の住まいは、わたしたちの霊の中にあります（エペソ2:22）。第二に、それは召会です（I テモテ3:15）。神の聖なる所に入るとは、わたしたちの霊に戻り、召会の集会や務めの集会に行くことです。わたしたちの霊の中で、また召会において、わたしたちは神聖な啓示を受け、わたしたちのすべての問題に対する説明を得ます。
 - b. 主との誠実な対話と神の聖なる所に入ることを通して、主を追い求める者は最終的に彼にこう言うことができるほど主によって照らされました、「わたしは天でああなたのほかにだれを持つでしょう？ 地ではあなたのほかに慕うものはありません。わたしの肉と心は衰えますが、神は永遠にわたしの心の岩、わた

しの分け前です」——詩73:25-26。

- c. 神を追い求める者たちに対する神の意図は、彼らが神を獲得し、あらゆることを彼の中に見いだし、ご自身に対する絶対的な享受からそらされないことです。神のエコノミーにおける彼の究極の願いは、彼が神ご自身をもってわたしたち一人一人を建造することであり、わたしたちが神・人となって、神格においてではなく、彼の命と性質において彼と同じになることであって、それは神を表現して、彼の栄光となるためです——イザヤ43:7. I コリント10:31. 6:20. I ペテロ4:11。

© 2022 *Living Stream Ministry*